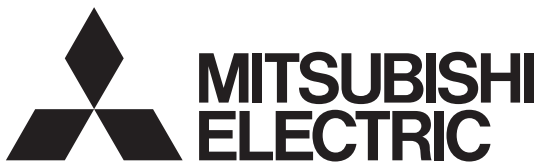


保管用



当社 My シリーズ専用器具本体とライト
ユニットの組み合わせで性能を満足します。

三菱LED非常用照明器具・階段通路誘導灯兼用形 [蓄電池内蔵形]

LED ライトユニット形階段灯 My シリーズ 20 形・40 形 壁付・天井付
個別制御方式自動点検機能付 (リモコン点検機能対応器具)

形名 **EL-LH-FH41200** (公共施設: K1-LBF11用本体, SK1-LBF11用本体) (40形)
EL-LH-FH21200 (20形)

据付工事説明書 取扱説明書

- ・この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できません。またアフターサービスもできません。
- ・電源周波数 50Hz、60Hz 共用形ですから、日本全国どこでも使用できます。

施工者さまへ

- ・施工の前に、この「取扱説明書」を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
- ・取付工事の後、必ずお客さまにお渡しください。

安全のために必ず守ること

誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。



警告

取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定される危害の程度



注意

取扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負うことが想定されるか、または物的損害の発生が想定される危害・損害の程度

図記号の意味は次のとおりです。



絶対に行わないでください。





必ず指示に従って行ってください。



警告

	高温 (35℃を超える)、高湿度 (85%RHを超える)、粉じん、機械工場などの油煙のある場所、強い振動・衝撃のある場所で使用しない。 (落下・感電・火災の原因)		器具取付けの際は電線を挟まない。 (絶縁不良により感電・火災の原因)
	引火する危険のある雰囲気を使わない。 (ガソリン・可燃性スプレー・シンナー・ラッカー・可燃性粉じんのある所で使わない) (火災の原因)		配線工事の際、電線の絶縁体にキズをつけない。 (絶縁破壊により感電・火災の原因)
	傾斜天井や、補強のない天井には取付けない。 (火災・落下の原因)		表示された電源電圧以外では使用しない。特に定格電圧の 90%以下の電圧使用は、電源ユニットの短寿命、故障となります。(感電・火災の原因)
	屋外、水や湿気のある場所、軒下・開放型駐車場・ピロティ等の雨線内で使用しない。 (感電・火災の原因)		分電盤と電源端子台の間には消灯スイッチを設けない。
	狭い箱のような中で使わない。また、器具を隠して使う場合は、放熱を妨げない。 (器具が過熱して火災の原因)		通電した状態でコネクタの接続をしない。 (感電の原因)
	器具を密集して取付けない。(100mm 以上離す) (器具の温度が高くなり火災の原因)		接続コネクタ・電源線・送り配線を挟み込まない。 (火災・感電の原因)
	直射日光の当たる場所で使用しない。 (変色・変形・火災の原因)		ライトユニット単体で使用しない。 (落下・感電・火災の原因)

⚠ 警告

 厳守	施工は電気工事士の有資格者が電気設備の技術基準・内線規程に従って行う。 (施工不備により、火災、落下、感電の原因)	 厳守	アース工事は電気設備の技術基準に従い行う。 (アース工事が不完全な場合は感電・火災の原因)
	器具の取付けは据付工事説明書・取扱説明書に従い行う。 (不確実な取付けは、器具落下・感電・火災の原因)		送り配線は誘導灯及び非常用照明器具専用とし、容量を確認して接続する。器具内送り配線はできません。 (容量を超えると電源端子台が過熱・焼損し火災の原因)
	器具の取付けは質量とライトユニットの引き下げ力に耐える所に取付ける。(落下の原因)		電源線を電源端子台の差し込み穴に確実に差し込む。(接続が不完全な場合は、接続不良による発熱により火災の原因)
	器具本体を確実に取付ける。 (取付けが不完全な場合、落下の原因)		電源の接続は適合太さの電源線を指定長さに被覆をむき、1本ずつ速結端子の奥まで差し込む。(差し込み不十分は接触不良により火災・感電の原因)
	配線種類例の中から適切な方法で結線する。 (誤結線すると、火災・感電の原因)		蓄電池を確実に接続する。 (接続が不完全な場合、火災・感電の原因)
	D種(第3種)接地工事を確実に行う。 (接続不備は感電の原因)		必ず当社の適合ライトユニットとの組み合わせで使用する。(落下・感電・火災の原因)

⚠ 注意

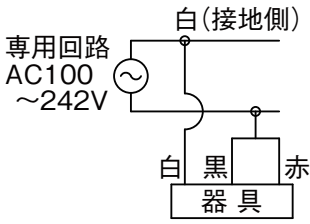
 禁止	レースウェイ、ダクトへの取付けや吊下げて取付け ない。(背面からほこりや虫が入り、不具合の原因)	 厳守	押し上げ時に器具本体とライトユニット間に 指を入れない。(けがの原因)
	腐食性ガスの発生する場所で使用しない。 (劣化による落下の原因)		点灯中及び消灯直後の器具本体及びライトユニット に触らない。(高温のためやけどの原因)
	器具を乾燥不十分なクロス貼り・コンクリート面には 取付けない。(絶縁不良やさびにより感電・落下の原因)		本体・蓄電池を確実に取付ける。 (取付けが不完全な場合落下の原因)
	風が吹く場所で使用しない。(落下の原因)		ライトユニット取付け後、電線の挟み込みがないこと を確認する。(感電の原因)
	ライトユニットの片側のみ取付けばねをばね受け金具 の角穴に入れた状態で保持しない。(落下の原因)		

お知らせ

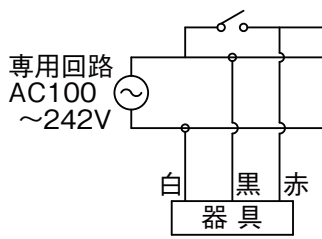
- ・周囲温度は5～35℃の範囲で使用してください。
- ・温泉地など、硫黄成分を含む腐食性ガスが発生する場所では使用しないでください。また、一般屋内でも器具周囲に硫黄成分が存在する場所では使用しないでください。光学特性に不具合が発生する原因となります。
- ・油煙のある場所では使用しないでください。光学特性が低下する原因となります。
- ・防犯カメラ等を使用する場合は、フリッカー対策仕様のカメラを使用してください。
- ・空調機器等の排気口・温風吹出口付近の取付けはお避けください。蓄電池の寿命が低下することがあります。
- ・内蔵蓄電池は、ご使用前に24(48)時間以上充電してください。()内の数値は非常灯の場合
- ・器具外周より広い平滑な天井面・壁面に取付けてください。天井面・壁面に凹凸がある場合、器具と天井面にすき間が発生する原因となります。
- ・電源を通電しないまま、蓄電池をつないで放置すると過放電状態になりますので、おやめください。
- ・工事中に短時間充電と非常点灯を繰り返さないでください。蓄電池の寿命を早める場合があります。
- ・工事完了から、使用開始まで時間がある場合は、消灯するまで器具を放置し、その後、蓄電池をはずし、保存してください。
- ・器具と半導体スイッチ式人感センサスイッチを組み合わせるとちらつきや騒音の発生、電源ユニット故障の原因となります。リレー接点式人感センサスイッチを使用してください。
- ・消灯スイッチを使用する場合、片切スイッチを電源の高圧側へ設置してください。200V電源使用時は、消灯時に微発光する場合がありますが、異常ではありません。
- ・誘導及び空間波無線に対する影響
使用周波数が数百kHzの誘導無線(同時通訳システム)及び数百MHzの空間波無線の場合、雑音が入ることがありますので、事前確認することをおすすめします。100V電源の場合には、接地工事することにより低減できる場合があります。
- ・バーコードリーダーを器具付近で使用した場合、読み取り感度が鈍くなる場合があります。事前確認することをおすすめします。

配線種類例

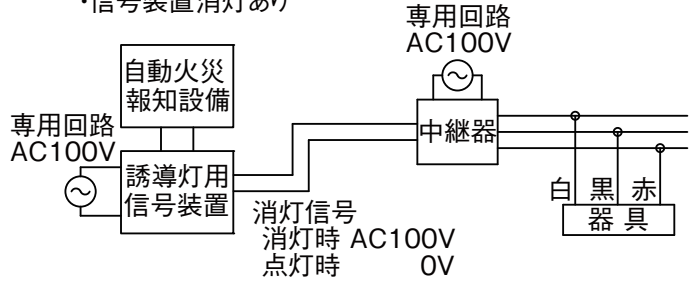
A・自火報連動なし
(2線式配線の場合)
・消灯なし



B・自火報連動なし
(3線式配線の場合)
・スイッチ消灯あり



C・自火報連動なし(3線式配線の場合)
・信号装置消灯あり



システム状態		配線方法	A	B	C
常時	常時		100%光束で点灯 (ライトユニット)		
	消灯信号入				消灯
非常時 (火災信号受信)			100%光束で点灯 (ライトユニット)		
非常時 (停電時)			非常用光源が点灯 (1200 lm)		

- ・システム配線仕様に合わせて、A から C のパターンより適切な方法で結線する。
- ・電源は器具の定格電圧と適合したものを接続する。信号電圧は AC100V です。
- ・配線方法 B：階段通路誘導灯としてこの配線方法を使用する場合は、所轄の消防署の了解を得る必要があります。

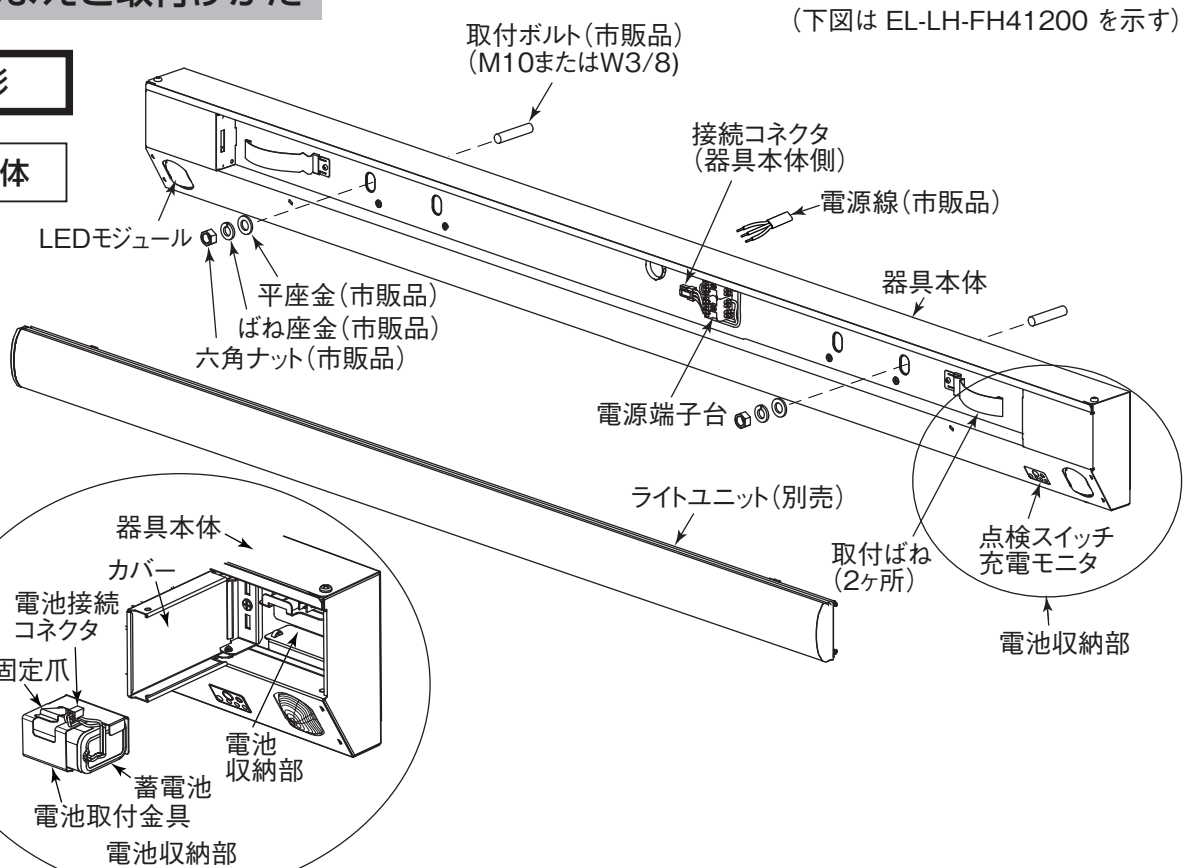
警告
A から C のパターンより適切な方法で結線する。
(誤結線すると、火災・感電の原因)

警告
表示された電源電圧以外で使わない。
(火災・感電の原因)

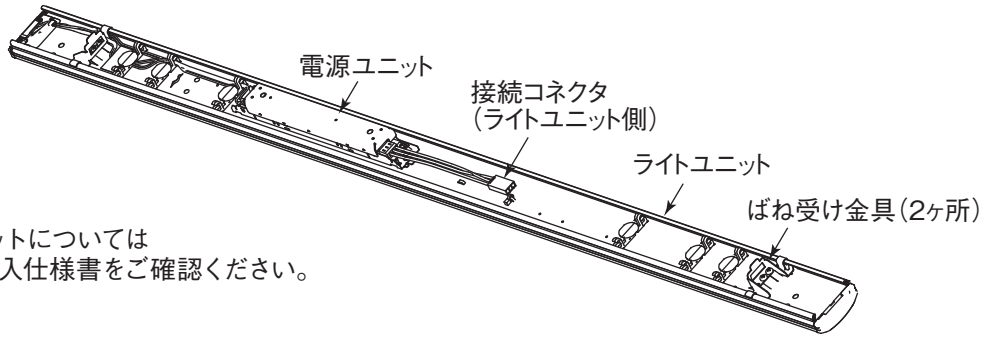
各部のなまえと取付けかた

40形

器具本体

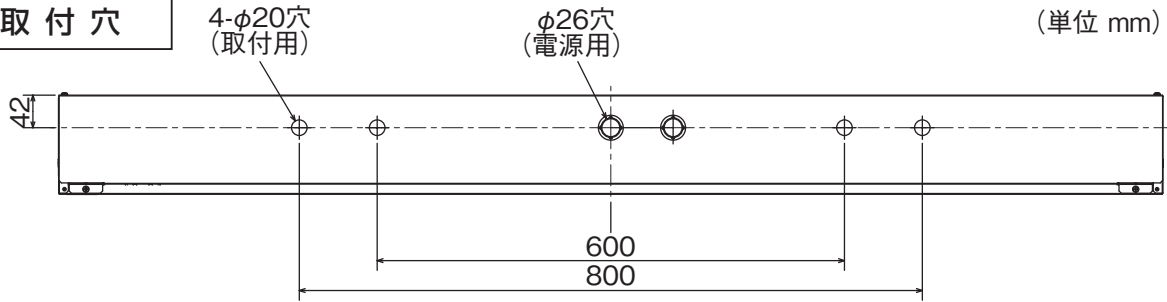


**ライトユニット
(別売)**



※適合ライトユニットについては
組合せ形名の納入仕様書をご確認ください。

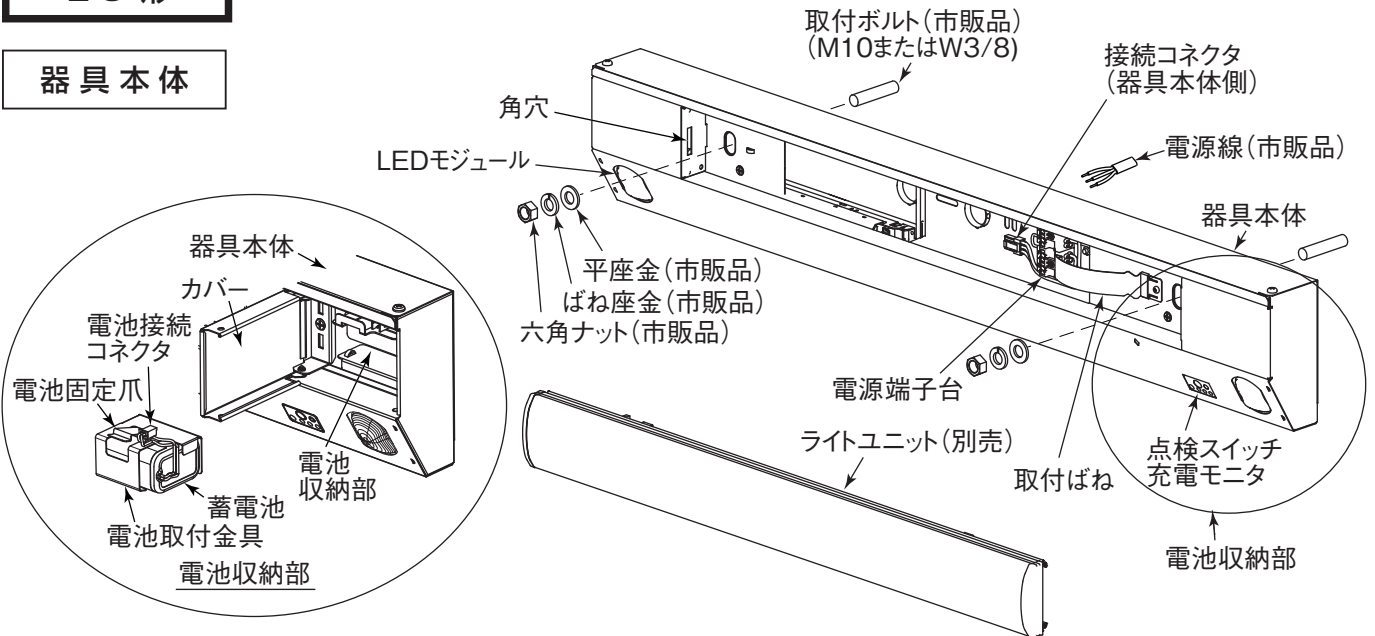
取付穴



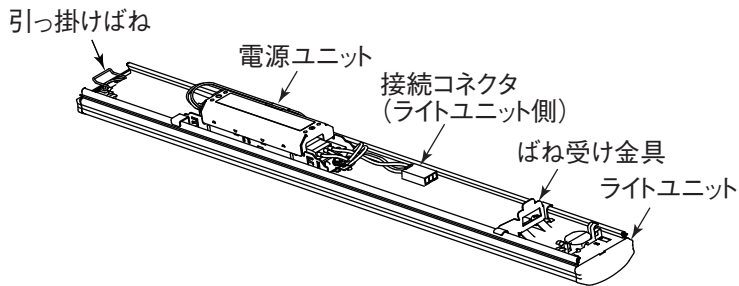
20形

器具本体

(下図は EL-LH-FH21200 を示す)

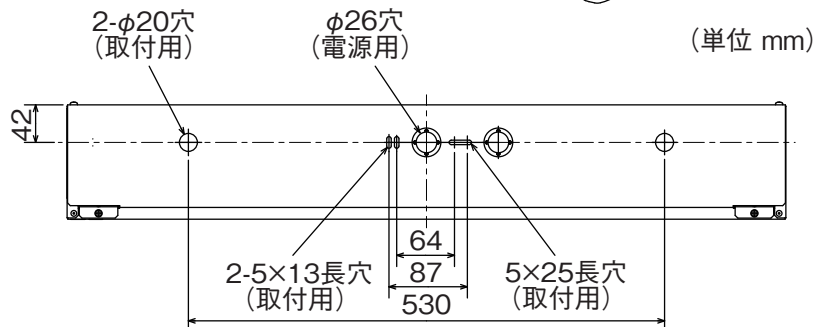


**ライトユニット
(別売)**

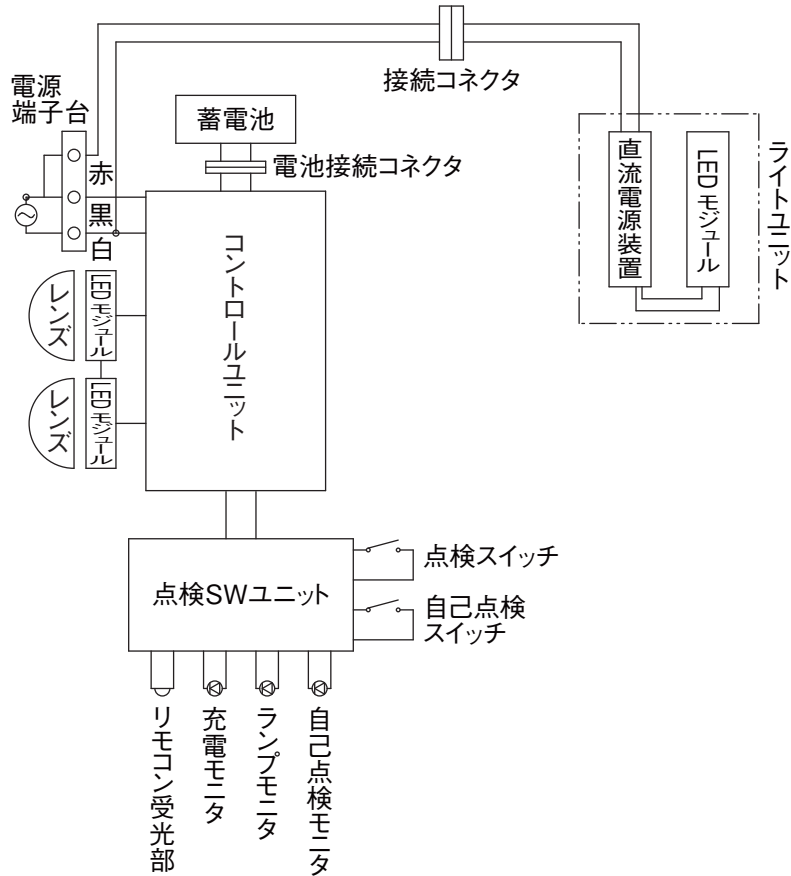


※適合ライトユニットについては
組合せ形名の納入仕様書をご確認ください。

取付穴



接続図



器具本体（非常用回路）定格

ライトユニット組合せ時の定格は、
組合せ形名の納入仕様書をご確認ください。

形名	定格電圧 (V)	周波数 (Hz)	入力電流 (mA)			消費電力 (W)		
			100V	200V	242V	100V	200V	242V
EL-LH-FH41200	AC100 - 242	50/60	15.2	8.6	7.7	1.5	1.6	1.7
EL-LH-FH21200	AC100 - 242	50/60	15.2	8.6	7.7	1.5	1.6	1.7



警告

器具の取付けは据付工事説明書・取扱説明書に従い行う。
(不確実な取付けは、器具落下・感電・火災の原因)

1 取付前の確認

- (1) 器具本体質量（下表）、ライトユニット質量、及びライトユニットの引き下げ力（60N）の合計に十分耐えるよう、取付部の強度を確保する。
 - ・ライトユニットの質量は、適合品の納入仕様書を参照ください。
 - ・取付ボルトは、M10 または W3/8 を使用する。



警告

器具の取付けは質量とライトユニットの引き下げ力に耐える所に取付ける。
(落下の原因)

- (2) 取付ボルトの長さは、壁面／天井面より 48 ～ 52 mm にする。



形名	器具本体質量
EL-LH-FH41200	約 3.6 kg
EL-LH-FH21200	約 2.3 kg

2 器具本体を取付ける

- (1) 器具本体のブッシュ付電源用穴に電源線・アース線を引き込む。
- (2) 市販品の平座金、ばね座金、六角ナットを用いて、本体を確実に固定する。
(推奨締め付けトルク 2.0 N・m～3.5 N・m)

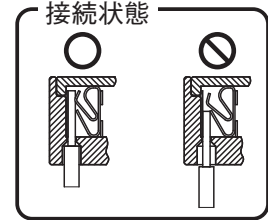


警告

器具本体を確実に取付ける。
(取付けが不完全な場合、
落下の原因)

3 電源線・アース線を電源端子台に接続する

- (1) 電源線には、ライトユニット同梱の耐熱チューブを取付ける。
(耐熱チューブ同梱のライトユニットのみ)
- (2) 電源線は非常用照明器具専用回路とする。
・適合引込み電源線 : $\phi 1.6$ mmVVF 単線
 : $\phi 2.0$ mmVVF 単線
- (3) アース線を電源端子台の差し込み穴に水平方向より確実に差し込む。



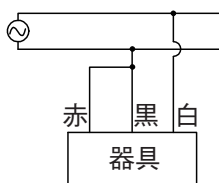
<D種(第3種)接地工事が必要です>

- (4) 電源線を電源端子台の差し込み穴に、水平方向より一本ずつ確実に差し込む。
・電源線、わたり線を電源端子台から取り外すときは、幅6mmのマイナスドライバーで、解除ボタンをまっすぐに押す。
- ・電源端子台の送り総容量はライトユニットの明るさタイプで異なります。(下表参照)

	明るさタイプ	送り総容量
40形	6900lmタイプ	12A
	5200lmタイプ	14A
	4000lmタイプ	16A
	3200lmタイプ以下	20A
20形	3200lmタイプ	16A
	1600lmタイプ	20A
	800lmタイプ	20A

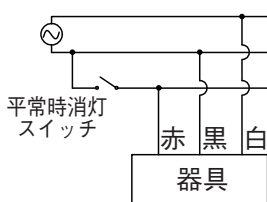
- (5) 送り電線は以下のものを使用する。
電源線 : $\phi 1.6$ EM-EEF

<单相2線2線引き・常時にライトユニットを
消灯しない場合>



警告 分電盤と電源端子台の間には
消灯スイッチを設けない。

<单相2線3線引き・常時にライトユニットを
消灯する場合>



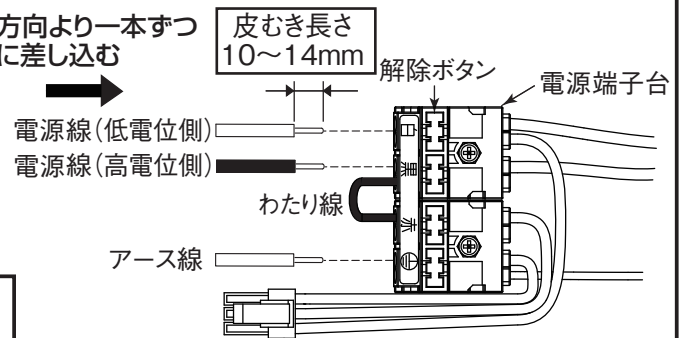
- ・電源端子台のわたり線ははずす。
- ・階段通路誘導灯としてこの結線方法を使用する場合は、所轄の消防署の了解を得る必要があります。



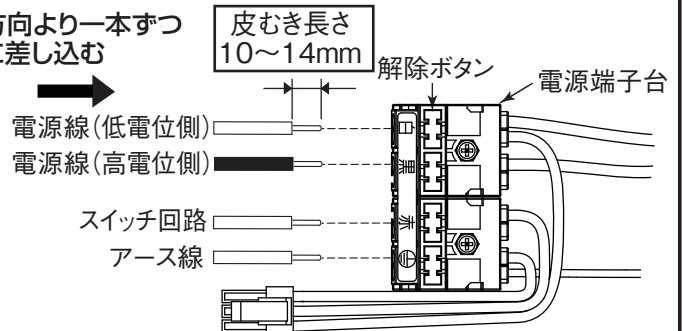
警告

- ・D種(第3種)接地工事を確実に行う。
(接続不備は感電の原因)
- ・アース工事は電気設備の技術基準に従う。
(アース工事が不完全な場合は感電・火災の原因)
- ・電源線を電源端子台の差し込み穴に確実に差し込む。
(接続が不完全な場合は、接続不良による発熱により
火災の原因)
- ・電源の接続は適合太さの電源線を指定長さに被覆をむき、
1本ずつ速結端子の奥まで差し込む。
(差し込み不十分は接触不良により火災・感電の原因)
- ・送り配線は誘導灯及び非常用照明器具専用とし、容量を
確認して接続する。
(容量を超えると電源端子台が過熱・損傷し火災の原因)

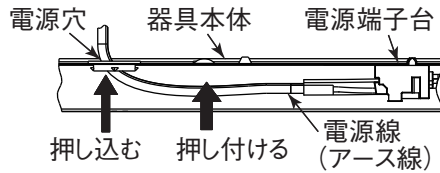
水平方向より一本ずつ
確実に差し込む



水平方向より一本ずつ
確実に差し込む

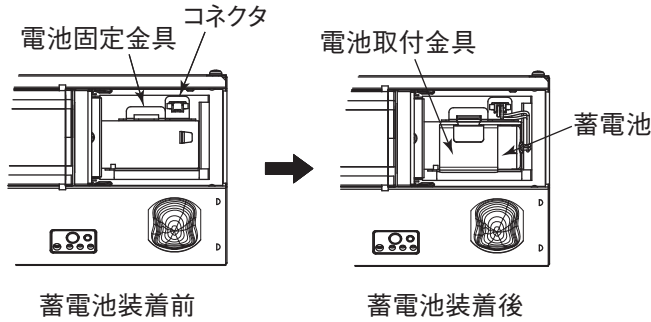


- (5) 電源線・アース線の接続後、余分な電源線はライトユニットとの当たりを防ぐため、電源穴に押し込むか電源線を器具本体に押し付ける。

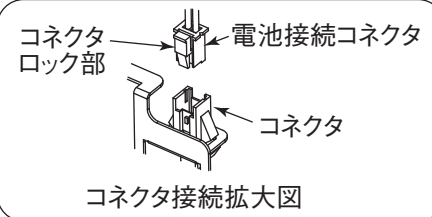
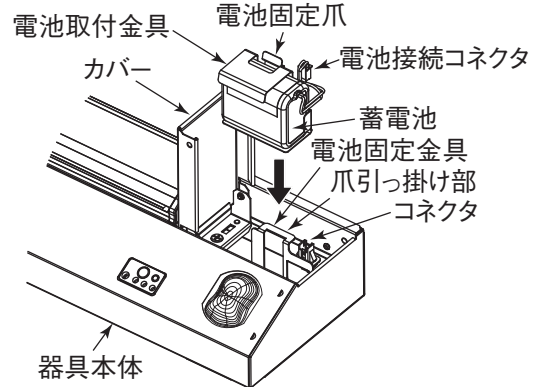


4 蓄電池を装着する

- (1) 電池取付金具の電池固定爪が電池固定金具の爪引っ掛け部へ確実にハマるまで押し込む。
- (2) 電池接続コネクタを電池固定金具に固定されているコネクタに接続する。
- (3) 電池収納部のカバーを閉める。



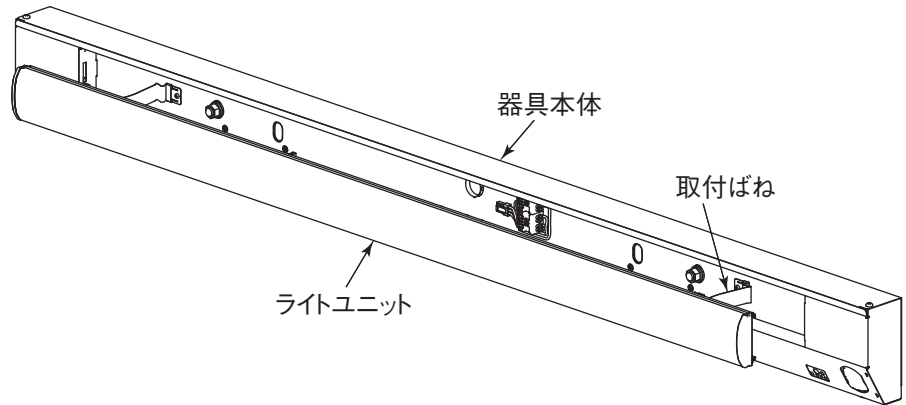
・非常点灯するには、一度 AC 電源を通电する必要があります。
通電せずに蓄電池を接続しても非常点灯しません。



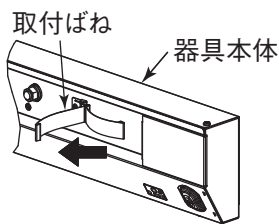
5 ライトユニットを器具本体に取付ける

40形

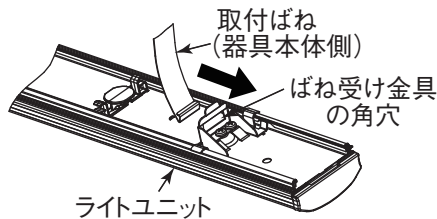
- (1) 器具本体にライトユニットを仮取付ける。



- ① 器具本体の取付ばねを下げる。



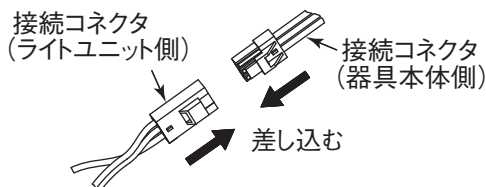
- ② 取付ばねをライトユニット両側のばね受け金具の角穴に入れる。



お願い
取付ばねを必要以上に曲げない。
(取付ばね変形の原因)

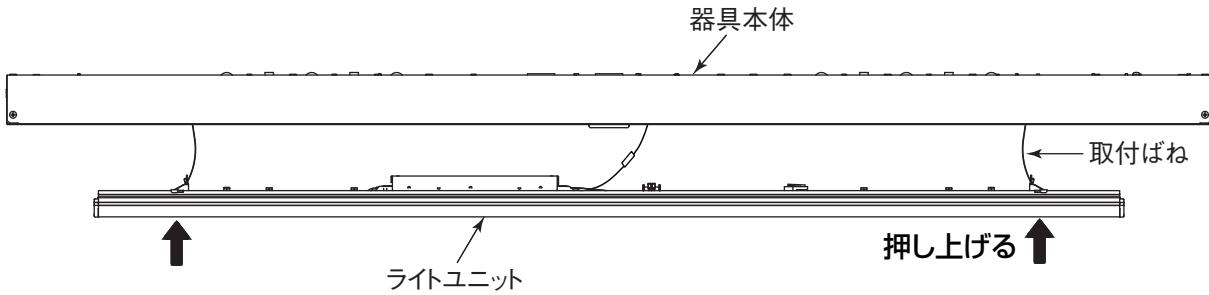
注意 片側のみ取付ばねをばね受け金具の角穴に入れた状態で保持しない。
(落下の原因)

- (2) 器具本体側とライトユニット側の接続コネクタを接続する。



警告
通电した状態でコネクタの接続をしない。
(感電の原因)

- (3) ライトユニットを取付ける。
 ・ライトユニットの取付ばね近傍を持ち、器具本体側に押し上げる。

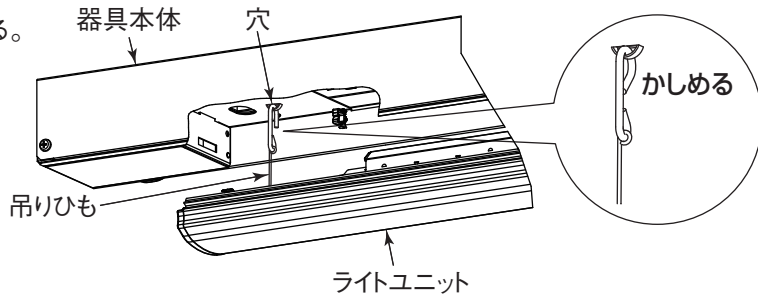


警告 接続コネクタ・電源線・送り配線を挟み込まない。
 (火災・感電の原因)

注意 ・押し上げ時に器具本体とライトユニット間に指を入れない。(けがの原因)
 ・ライトユニット取付後、電線の挟み込みがないことを確認する。(感電の原因)

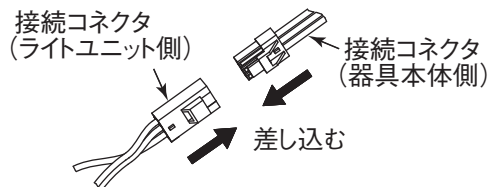
20形

- (1) 吊りひもを器具本体の穴に引っ掛ける。

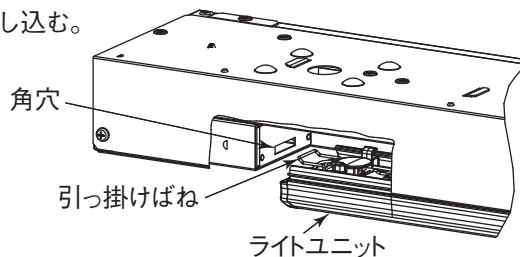


- (2) 器具本体側とライトユニット側の接続コネクタを接続する。

警告
 通電した状態でコネクタの接続をしない。
 (感電の原因)

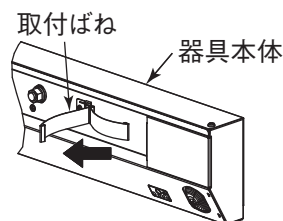


- (3) ライトユニットの引っ掛けばねを器具本体の角穴に差し込む。



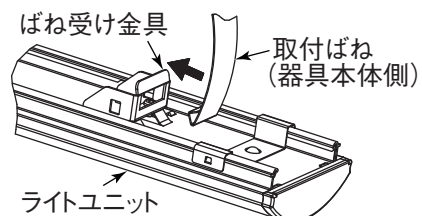
- (4) 器具本体にライトユニットを仮取付ける。

- ① 器具本体の取付ばねを下げる。



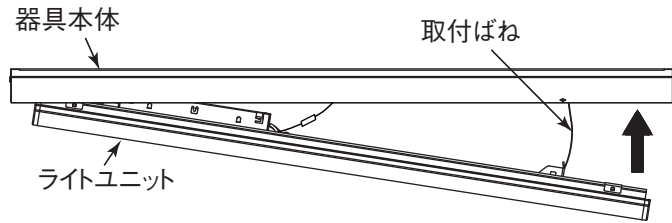
お願い
 取付ばねを必要以上に曲げない。
 (取付ばね変形の原因)

- ② 取付ばねをライトユニットのばね受け金具の角穴に入れる。



(5) ライトユニットを器具本体側に押し上げ、取付ける。

警告
 接続コネクタ・電源線・送り配線を挟み込まない。(火災・感電の原因)



注意 ・押し上げ時に器具本体とライトユニット間に指を入れない。(けがの原因)
 ・ライトユニット取付後、電線の挟み込みがないことを確認する。(感電の原因)

6 充電状態と非常点灯を確認する

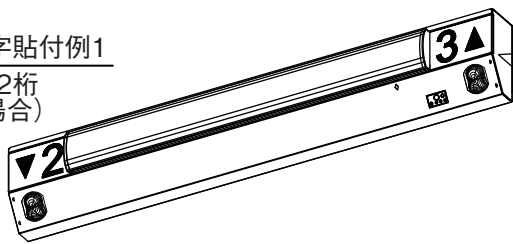
- ・電源通電状態でランプ及び充電モニタが点灯するか確認する。
- ・48 時間 (誘導灯は 24 時間) 充電後点検スイッチを押し、非常点灯するかを確認する。
- (1) 通常点灯しない場合
 - ・ライトユニットの接続コネクタは接続されていますか。
 - ・電源端子台に誤配線していませんか。
 - ・電源電圧は定格通りですか。
- (2) 非常点灯しない場合
 - ・電源は通電されていますか。
 - 通電せずに、蓄電池を接続しても非常点灯しません。
 - ・蓄電池の接続コネクタは接続されていますか。
 - ・蓄電池は 24 (48) 時間以上充電されていますか。() 内の数値は非常灯の場合
- (3) 充電モニタ (緑色の表示ランプ) が点灯しない場合
 - ・電源端子台に誤配線していませんか。
 - ・電源は通電されていますか。
 - ・電源電圧は定格通りですか。
 - ・蓄電池の接続コネクタは接続されていますか。

7 器具に階段用表示文字を貼付する場合

器具に階段用表示文字 (別売) を貼付する場合は、下記の図に指示しているスペースに貼付することができます。(階段用表示文字は器具に貼付せずに、器具近傍の壁面などに表示してもかまいません。)

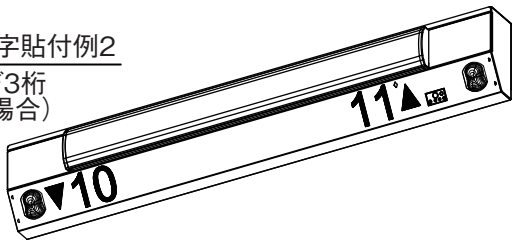
階段用表示文字貼付例1

(階段用表示が2桁 (▲を含む) の場合)



階段用表示文字貼付例2

(階段用表示が3桁 (▲を含む) の場合)



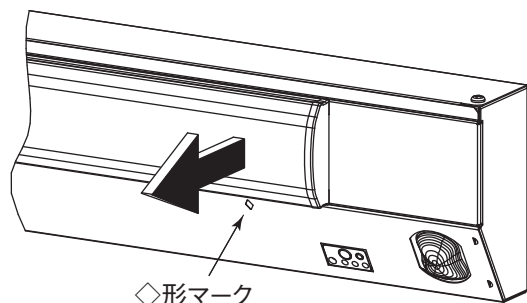
約100mm (表示文字貼付スペース)
 約64mm (表示文字貼付スペース)
 約158mm (表示文字貼付スペース)

※1 各表示文字貼付スペースを確認の上、表示文字を手配してください。
 ※2 当社文字シールを貼付する場合、サイズ:当社1号、字体:マル/角を推奨します。

8 ライトユニットの取外しかた

器具本体の◇形マークを目印に、ライトユニット側面部を持ち、両手で水平に引き出す。(20 形は片側のみ)

注意
 点灯中及び消灯直後の器具本体及びライトユニットに触らない。(高温のためやけどの原因)



個別制御方式自動点検機能(非常灯用) 以下自己点検機能というの使用方法

- 自己点検機能を使用する前に以下の項目を確認してください。
 - 48 時間以上連続充電をしている。(点検スイッチを押したり、停電等で電源が遮断されてしまった場合は自己点検に移行しません)
 - 充電モニタが点灯している。(蓄電池が正常に接続・充電されている)
 - ランプモニタが消灯している。(ランプが正常状態である)
 上記項目を満足していない場合は、自己点検スイッチを操作しても自己点検機能に移行しません。

① 器具本体の自己点検スイッチを 3 秒以上押す
または
リモコン(RZB02 (別売))の自己点検ボタンを押す



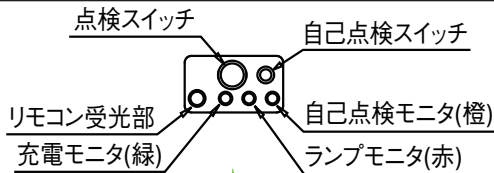
② 自己点検開始



③ 定格時間(30分)後、自動で通常状態に復帰



④ 点検結果を右表の器具モニタで確認する



- 自己点検スイッチ：3 秒長押しで自己点検を開始します。
- 点検スイッチ：スイッチを押している間、非常点灯に切り替えます。
- 自己点検モニタ：自己点検中である事、点検可能・不可をお知らせします。
- ランプモニタ：ランプの異常をお知らせします。
- 充電モニタ：蓄電池が充電中である事、寿命をお知らせします。
- リモコン受光部：別売のリモコンの信号を受ける受光部です。

		器具モニタ表示	
ランプモニタ (赤)	点灯	ランプの外れ・破損(非常点灯状態時のみ点灯)	
	点滅	—	
	消灯	正常	
充電モニタ (緑)	点灯	正常	
	点滅	蓄電池の寿命	
	消灯	蓄電池が充電されていない、または接続されていない	
自己点検 モニタ(橙)	点灯	—	
	点滅	自己点検中	
	消灯	—	

- 蓄電池容量が不足している場合は定格時間(30分)経過前に点検結果を表示し、通常状態に復帰します。
- ※点検の結果、蓄電池が寿命と判断された場合は速やかに蓄電池を交換してください。
- 自己点検機能が動作中に、点検スイッチを押すことにより自己点検を解除することができます。
- 蓄電池をつながない状態で点検スイッチを押すと充電モニタが点滅します。

自己点検用リモコンの使用方法

RZB02 (別売)



- 確認ボタン：自己点検可能か確認します。
- 自己点検ボタン：自己点検を開始します。
- 中断ボタン：自己点検を中断します。
- 手動点検ボタン：3秒間非常点灯に切り替えます。
- モニタ明るくボタン：対応していません。

- ※リモコンの誘導灯用のボタンは使用しません。
- ※48 時間以上連続で充電している場合でも、自己点検を実施する前に手動点検を実施すると自己点検に移行できません。(48 時間以上連続充電していないとみなすため)
- ※リモコンの使用方法詳細については、リモコンに付属の取扱説明書をご覧ください。

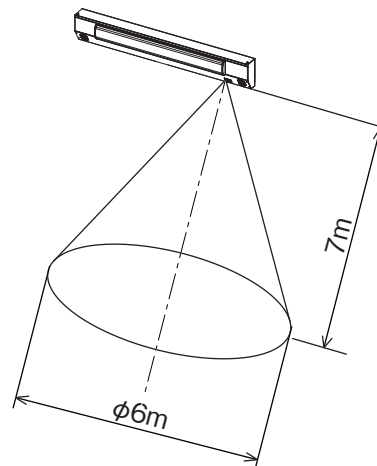
お願い
スイッチを強く押さない。
(破損・故障の原因)

リモコンの確認ボタンを押したときの器具モニタ表示

モニタ表示	自己点検モニタ(橙)	ランプモニタ(赤)	充電モニタ(緑)
点検可能な場合(連続充電時間: 48 時間以上)	●	○	●
点検不可な場合(連続充電時間: 48 時間未満)	●	●	○

リモコンの操作範囲

リモコン操作は、点検を開始する器具の真下から受光部に向けて行ってください。誤動作した場合は器具の受光部に向けて中断ボタンを押してください。






お客さまへ




ご使用前に、この「取扱説明書」を必ずお読みください。お読みになった後、大切に保存し、必要なお役立てください。

安全のために必ずお守りください

警告

 禁止	お客さま自身で電気工事はしない。電気工事士の資格が必要です。(感電・火災の原因)	 禁止	蓄電池はショート・分解・加熱・変形させない。また、火中に入れない。(やけどや衣類損傷の原因)
	器具の改造や指定部品以外の交換はしない。(火災・感電・落下の原因)		 厳守
	器具やランプを布や紙などで覆わない。(可燃物をかぶせて使うと火災の原因)	器具の清掃・蓄電池の交換は電源スイッチを切ってから行う。(感電の原因)	
	器具のすき間や放熱穴に金属類を差し込まない。(火災・感電の原因)	必ず当社の適合ライトユニットとの組み合わせで使用する。(落下・感電・火災の原因)	
	器具の直下や近くにストーブなどの熱器具を置かない。(過熱して火災の原因)		

注意

 禁止	光を直視しない。(長時間直視すると目を痛める原因)	 厳守	レンズはガラス製のため、取扱いに注意する。(割れたときけがの原因)	
	ライトユニットに塗料などを塗らない。(ライトユニットが過熱・破損してけがの原因)		 厳守	明るく安全にご使用いただくために半年に1回の保守・点検を行う。(発火・感電・落下の原因) 不具合があったら、そのまま使用しないで、お買上げの販売店・施工者・設備業者に修理を依頼する。
	ライトユニットを落としたり、(物を)ぶつかけたり、無理な力を加えない。(ライトユニットが破損してけがの原因)			・照明器具には寿命があります。設置して8～10年経つと、外観に異常がなくても内部の劣化が進行しています。点検・交換をおすすめします。LED光源は寿命が来ても、暗くなりますが点灯続けます。点灯出来るからといって継続して使用が可能というわけではありません。 ※使用条件は周囲温度 30℃、1日 10時間点灯、年間 3000時間点灯です。
	点灯中及び消灯直後の器具本体及びライトユニットに触らない。(高温のためやけどの原因)			・周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合は寿命が短くなります。 ・3年に1回は工事店等の専門家による点検をお受けください。 ・点検せずに長期間使い続けると、まれに、発煙、発火、感電などに至る恐れがあります。


器具の清掃


<器具のお手入れについて>

- 器具の汚れがひどいときは、柔らかい布を使用量の目安まで水でうすめた台所用中性洗剤につけてよくしぼってから拭きとり、さらに洗剤成分が残らないようによくしぼった水拭き用の柔らかい布で仕上げてください。
- 台所用中性洗剤は、原液のまま使用しないと、シンナー・ベンジン・みがき粉やたわし・熱湯・アルカリ性洗剤・薬品などは使用しないでください。

<レンズのお手入れについて>

レンズはキズつきやすいのでメガネ拭き等柔らかい布で拭いてください。

 **警告** 電源スイッチを切ってから行う。(感電の原因)

 **注意** 点灯中及び消灯直後の器具本体及びライトユニットに触らない。(高温のためやけどの原因)

蓄電池の交換

適合蓄電池 **7H15DB-S** (非常灯用蓄電池 7H15DB と電池取付金具を組合せることで、階段灯の適合電池 7H15DB-S となります。)



Ni-MH

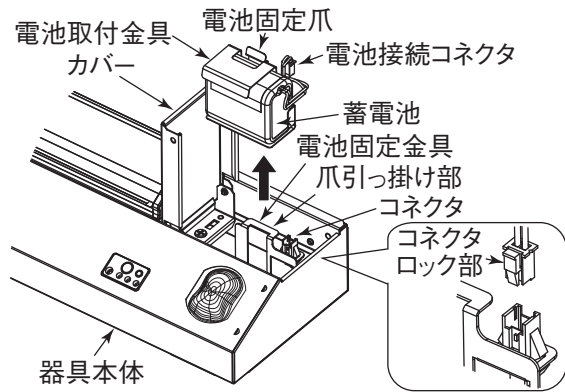
この製品には、ニッケル水素電池を使用しております。ニッケル水素電池はリサイクル可能な貴重な資源です。ニッケル水素電池の交換及びご使用済み製品の廃棄に際しては、ニッケル水素電池を取り出し、回収拠点へお持込みください。詳細は弊社カタログをご覧ください。

警告

- 電源スイッチを切ってから行う。(感電の原因)
- 蓄電池はショート・分解・加熱・変形させない。また、火中に入れない(やけどや衣類損傷の原因)

- (1) 電池収納部（器具右端）のカバーを開ける。
- (2) 電池接続コネクタを外す。
- (3) 電池固定爪を内側に引っ張りながら、電池取付金具ごと蓄電池を取り出す。
- (4) 交換用蓄電池の電池固定爪が電池固定金具の爪引っ掛け部へ確実にハマるまで押し込む。
- (5) 電池接続コネクタを電池固定金具に固定されているコネクタに接続する。
- (6) 電池収納部のカバーを閉める。

- ・蓄電池は4～6年が交換の目安です。
- ・蓄電池の交換は必ず当社指定の純正部品を使用してください。



定期点検

- ・6ヶ月に1回、外観及び機能（非常点灯持続時間と切替動作）の点検を行う。[建築基準法施行規則第6条・消防庁告示第9号と第14号]
- ・24(48)時間以上充電後、非常点灯持続時間が20(30)分以下となったら蓄電池を交換する。()内の数値は非常灯の場合
- ・消防法では点検結果を所轄の消防署に報告することが義務づけられています。[消防法施行規則第31条]

点検チェック票

設置年月日

年 月 日

設置場所

点検年月日	点検内容			点検者	点検年月日	点検内容			点検者	点検年月日	点検内容			点検者
	外観	切替動作	非常点灯持続時間			外観	切替動作	非常点灯持続時間			外観	切替動作	非常点灯持続時間	

保証について

- ・無償修理
照明器具の商品納入日より1年間、また照明器具に内蔵されているLED光源・電源ユニットは3年間です。
- ・無償提供
LED光源・電源ユニットの故障による不点灯不具合につきましては、代替商品またはLED光源・電源ユニットを5年間無償提供させていただきます。
- ※蓄電池は消耗品のため対象外です。
- ※1日20時間以上点灯する常用光源部については、保証期間を半分の期限とさせていただきます。
- ※保証期間と保証内容についての詳細はカタログを参照ください。

お知らせ

- ・一度常用電源を通電しないと、非常点灯しません。
- ・リモコンの”モニタ明るく”機能には、対応していません。
- ・電池を接続しない状態で、商用電源をON/OFFすると、非常用光源が一瞬点灯することがありますが、故障ではありません。
- ・点灯、消灯時にカバー、反射板の収縮・膨張により、きしみ音が発生する場合がありますが、異常ではありません。
- ・LEDにはバラツキがあるため、同一形名の器具でも発光色、明るさが異なる場合があります。ご了承ください。
- ・LED光源の交換はできません。交換の際は器具ごと交換ください。
- ・ライトユニットが点灯した状態で、点検スイッチを押して非常点灯に切替える場合は、ライトユニットは消灯しません。
- ・商品監視システム（防犯センサー）の一部の機器は電源ユニットの周波数と干渉して誤動作する場合がありますので、事前に商品監視システムのメーカーにご確認ください。
- ・電力線搬送を使用した機器と電源を共用すると、電力線搬送機器が正常に作動しない場合があります。
- ・電源事情のわるい場所では、LEDがちらつく場合があります。
- ・誘導及び空間波無線に対する影響
使用周波数が数百kHzの誘導無線（同時通訳システム）及び数百MHzの空間波無線の場合、雑音が入ることがありますので、事前確認することをおすすめします。100V電源の場合には、接地工事することにより低減できる場合があります。
- ・バーコードリーダーを器具付近で使用した場合、読み取り感度が鈍くなる場合があります。事前確認することをおすすめします。

異常時の処置

警告

煙が出たり、変な臭いがしたり、破損したなど異常を感じた場合はすぐに電源を切る。（火災・感電の原因）
煙が出なくなるのを確認して、工事店または下記連絡先にご相談ください。

この説明書は、再生紙を使用しています。

取扱い・修理のご相談は、まず
お買上げの販売店・施工者・設備業者へ

三菱電機株式会社
三菱電機照明株式会社

〒247-0056 神奈川県鎌倉市大船2-14-40

お買上げの販売店等にご依頼できない場合は、ご相談窓口へお問い合わせください。FAX (0467) 46-8861

ご相談窓口 照明技術相談センター

0120-348-027 (無料)

受付時間 9時～17時 (土・日・祝日は除く)

FAX (0467) 46-8861